



研究テーマ

- 1 ユニバーサル段階における大学(生)教育、特に日本語学の導入と体系
- 2 ユニバーサル段階における大学(生)教育、特に「出会い」のプログラム
- 3 民間学的なフィールドにおける創発的な試みの発掘と再評価



塚本 泰造

つかもと たいぞう
教育学部
国語教育講座

教授

キーワード

自己紹介、「書く」から「作る」へ、創発的な語句の発掘、入門書、教育言語学、プレゼンテーション

特許情報・
共同研究・
応用分野など

研究概要

・現在の大学はユニバーサル段階を迎え、大学における授業実践とそのカリキュラムに沿った運営、特に学部において伏流となっている専門領域の研究者(特定専門職)育成のモデル(教科書では章の流れ)と、その投企の対象である大学生と間にミスマッチが起きていると考えられます。また、「日本語」は現在、言文一致を確立した時代以来の「体質改善」(渡辺実『日本語概説』)が求められています。

・以上のことを前提に、大学(生)教育という限定の中で上記 3 つの具体的な局面、主に言語事項に関わる再編成と、その資源の歴史的発掘をテーマとしています。

1 応用的分野と基礎的分野の逆転による科目の展開

言語(母語)使用者として私と言語環境、特に社会に関わるマクロサイズの事象と日常生活に関わるマイクロサイズの事象、そして歴史的事象とを扱った後に、さまざまなネットワークの単位として存在する言語(または母語)そのものを自覚する展開を設計している。

2 すべての教育プログラム、チームワークプロジェクトの駆動の源である「出会い」の場の動的設計

特に自己の安心と他者への信頼を即座に実感できるように、「自己紹介」のプログラムを、授業のみならず公開授業等で実践中。

そしてその場面設計をスプリングボードとして、文章作成法を加えている。



3 主に上記1の資源として発掘再評価したものを以下に示す。

- ・明治期の山田文法における非・術語、非・文法用語としての「陳述」「装定」
- ・本居宣長に代表される近世国学者の学問的著述群に見られる「から」
- ・谷川俊太郎ほか『にほんご』の読解と展開の解読
- ・滝沢馬琴の読本に見られる「侍り」「候」のジェンダーによる書き分け
- ・野田泉光院『日本九峯修行日記』に見られる全国農民層の無心に対する応答表現の書き分け

ホームページ

技術相談に応じられる関連分野

- ・効果的な出会いの場(アクティブラーニング、言語教育)
- ・国語嫌い(国語教育)
- ・日本語(伝わる表現、プレゼンテーション)

メッセージ

学生たちの反応から、苦手克服の体験が自らの経験に変わるような試みを実践しています。